

第2章

令和7年度

県教育委員会や市町村教育委員会*実施の
家庭教育に関する講座・研修会

※市町村によっては、家庭教育支援を教育委員会ではなく、首長部局が実施している場合があります。

以下、「市町村教育委員会」の表記には「市町村」も含むものとします。

令和7年度 家庭教育支援関連事業 実践事例集

市町村教育委員会では、保護者に対する学習の機会や、親子のふれあいの機会を提供しています。これらの機会を通して「子どもの生活習慣に関する指針」や「やまがた子育て5か条」に触れながら、よりよい生活習慣づくりについて考えることもできます。

また、県教育委員会では、家庭教育の充実に向け家庭教育に携わる方向けの研修会や、読書に関する講座・研修会を実施しています。

<市町村教育委員会の取組み>

◆やまがた子育て講座

保護者に対しての学びの機会を提供するために、主に小・中学校を会場に、家庭教育・子育てに関する講座を実施しています。

◆幼児共育ふれあい広場

主に、幼稚園や保育所を会場に、「人やモノ、自然とのかかわり」と地域とのかかわりを大切にした親子の体験的な活動等を実施しています。

<県教育委員会の取組み>

◆家庭教育支援フォーラム

家庭教育支援の充実を目指し、実践事例の紹介や講演、情報交換会等を通して学びを深めていきます。主に幼稚園・保育園や小・中・高の先生方、子育て支援に携わる方を対象にした研修会です。

◆多様な子どもの読書活動推進研修会（令和6年度～）

家庭・地域・学校等が連携した読書活動の推進するために、

1. 子どもの発達段階や生活環境に応じた読書活動への理解を深めること
2. 多様な子どもの読書活動を支援する人材の育成すること

を目的とした研修会を実施しています。公立図書館（室）職員、読み聞かせサークル、教員、学校司書等を対象とした大人向けの研修会です。

◆多様な子どもの読書活動推進講座（令和6年度～）

親子が一緒に地域資源を活用した多様な読書活動を体験する機会を通して、子どもが読書の楽しさを感じ、自ら本に親しむきっかけをつくることを目的とした講座を実施しています。主に小学生までの子どもとその保護者を対象にした親子向けの講座です。

令和7年度の実践事例を次ページ以降で紹介しています。講座や研修会を企画する際の参考にしてください。なお、令和4～6年度の実践事例は、下記二次元コードから参照ください。



←山形県ホームページへリンク



令和7年度山形県家庭教育アドバイザー一覧

地 区		氏 名	職 名	専 門 領 域
村 山	1	えんどう まさあき 遠藤 正明	元山形県PTA連合会長	家庭教育全般
	2	はたなか まきのり 畑中 昌則	山形県マジック協会長	しつけ 孫育て
	3	わたなべ ゆうこ 渡邊 裕子	紙ふうせんの会代表、元保育園長	読み聞かせ わらべうた 幼児共育
	4	いとう ようこ 伊藤 洋子	臨床心理士、県スクールカウンセラー	臨床心理
	5	にへい あけみ 二瓶 明美	認定音楽療法士、にこにこ音楽子育て支援の会 会長	家庭教育全般 特別支援教育 親子ふれあい活動
	6	やぐち ゆり 矢口 友理	山形大学地域教育文化学部准教授	食育 スポーツ栄養学
	7	むらやま けいこ 村山 恵子	NPO法人「クリエイトひがしね」事務局長、心の教育相談員	育児支援 幼児共育 遊育
	8	さきはら えいこ 笹原 英子	元小学校教諭、公認心理士、県スクールカウンセラー	子育て相談 家庭教育全般
	9	おおぬま ちえ 大沼 千絵	元小学校教諭、県スクールカウンセラー	教育相談 家庭教育全般
	10	すずき りえこ 鈴木理枝子	学校心理士、ガイダンスカウンセラー、元幼稚園長、元小学校長	家庭教育全般 教育相談
	11	つちや つねよし 土屋 常義	元山形県朝日少年自然の家所長、元小学校長、村山市はやま認定こども園長	家庭教育全般 地域教育全般 自然体験学習
	12	きくち きみこ 菊地喜美子	フリーアナウンサー、こどもアナウンス発声協会講師	コミュニケーション 言葉の表現
	13	すとう よしこ 須藤 好子	元養護教諭、一般社団法人日本アンガーマネジメント協会認定 アンガーマネジメン トコンサルタント、アンガーマネジメントチーフファシリテーター、アンガーマネジメン ト叱り方トレーナー、アンガーマネジメントハラスメント防止アドバイザー	アンガーマネジメント
最 上	1	あ べ あきら 阿部 彰	パリス保育園長	子どもの教育全般
	2	さとう なるみ 佐藤 成美	家庭教育応援・ボランティア活動団体「アベルんち」代表	不登校 障がい児に対する支援 読み聞かせ
	3	いとう じゅんこ 伊藤 淳子	特定非営利活動法人 さけがわ友遊クラブ クラブマネジャー	健康づくり・レクリエーション
	4	ぬまざわ なおと 沼澤 直人	最上広域交流センターゆめりあ館長、元小学校長	学校教育 社会教育 体験活動
置 賜	1	くろだ み か 黒田 三佳	人材育成アカデミーローズレーン 代表、里山ソムリエ®	家庭教育全般
	2	たかはし 高橋まゆみ	エッセイスト、元南陽市教育委員会教育委員長	家庭教育全般
	3	お の たくや 小野 卓也	三峯山洞松寺住職、人権擁護委員、保護司	家庭教育全般
	4	たかせ なおみ 高瀬 尚美	長井市家庭的保育ルーム ひよっこ 主任保育士、川西話し会「きらきら」元会員	読み聞かせ 子育て支援(幼児教育)
	5	こまつ ひろみ 小松ひろみ	元養護教諭、長井市教育相談員	生活リズム 心の健康
庄 内	1	さいとう まさし 齋藤 雅志	山形県体操協会会長、前山形県国公立幼稚園会長	家庭教育全般 幼児・小学生
	2	ごとう けいこ 後藤 敬子	ごつと助産院院長	命の誕生 思春期 性教育 生き方教育
	3	かねこ たけし 金子 健	個別支援教室ここ代表	特別支援教育(発達障がい) 子育て支援
	4	たんじ あかお 丹治 亜香音	特定非営利活動法人 明日のたね 代表理事、山形県教育委員	子育て支援 自然体験活動
	5	うたがわ ゆたか 歌川 裕	SR会副代表、東北公益文科大学 非常勤講師	家庭教育全般(小学生・中学生・子育て)

◆やまがた子育て講座◆

- 事例1** 自分で考え行動できる力を育てる ～声がけやかかわり方で子どもは変わる～
会 場：寒河江市立白岩小学校
講 師：笹原 英子 氏（県家庭教育アドバイザー・公認心理師）

<研修目的>

就学前後の子どもにつけたい力と、子どもを伸ばす言葉かけと関わり方のコツを知る

<研修内容>

- 1 入学までに身につけたいこと
・「1年生になるまでに～になってほしい」を考える
- 2 非認知能力について
・学力テストで測られない「生きる力」とは？ 等
- 3 子どもを伸ばすかかわり方
・非認知能力を育てる家庭教育のポイント 等
- 4 言葉かけの練習
・「尊重する」「認める」「信じる」「任せる」が大切



- ★家庭でも一緒に練習しできるようになったことを共に喜ぶ。→安心・楽しみにつながる
- ★子どもには“失敗する権利”がある。失敗から学ぶことはたくさんある。
- ★おせっかいをやめる。→ 子どもが自分で判断できると信じていると伝える大切さ

【参加者の声】

- ・小学校に入るまでに何をすればいいのか、子どもとどう接すればいいか知ることができて良かった。
- ・子どもの気持ちを引き出す大切さを学んだ。子どもに対する声がけをもっと頑張りたい。

- 事例2** 親子で考えよう！SOSの出し方・受け止め方
～ここに負担を感じた時にするといいこと～

会 場：舟形町立舟形中学校
講 師：安保 寛明 氏（山形県立保健医療大学）

<全体講演会（研修会）>

- 1 こころの状態を紙風船に例えていただき、その状態をイメージできた。
- 2 ヘこんだ紙風船は自然には膨らまないように、脳や心が疲れているときは、誰かの助けが必要だと学んだ。
- 3 講演後は学年ごとにグループに分かれ、脳と心が疲れている時の対処法を親子で話し合った。



<参加者の感想>

- ・子どものSOSに気づける親になりたい。
- ・ポジティブな言葉への変換の難しさと大切さが分かった。
- ・脳と心が疲れた時の対処法が学べて良かった。



事例3 『ひとつ、ひとつ。』向き合いませんか。 ―今、子供のためにできること―
会 場：米沢市立窪田小学校
講 師：高橋 まゆみ 氏（県家庭教育アドバイザー）

<講演会>

- 1 自己紹介
- 2 活舌をよく話すために
- 3 子どもは大人の理不尽に耐えている（約束）
- 4 不得意なこと
- 5 ママの目はうしろについているのか
- 6 スマホは使い方次第
- 7 こんな話でひといきしましょう
- 8 読書について
- 9 食について
- 10 まとめ



<参加者の感想>

- ・内容が分かりやすく、自分を振り返る機会になりました。
- ・子どもとの向き合い方など、日々の生活の中で蔑ろ^{ないがし}になりがちだったため、改めて考えさせられた時間でした。
- ・先生の人柄が素敵でした。子育ての参考になることを教えていただきました。
- ・自身の体験、子育ての経験をもとに話をしてくださりととてもためになりました。

事例4 やる気スイッチの入れ方 ～自己肯定感を高める魔法のことば～
会 場：酒田市立浜中小学校
講 師：岩本 諒子 氏（酒田市教育相談室 相談専門員）

<講演会>

- ・新入学児童が小学校生活にスムーズに対応できるようになるために大切なこと
- ・親として子どもへの関わり方
- ・質疑応答

<参加者の感想>

- ・「ありがとう」など言葉の力に改めて気付きました。
- ・なかなか親には言えないこと、心の言葉など目には見えない部分が大人と同じように子どもにもあることを発見できました。今からすぐ実践していきたいです。
- ・子どもに対する声がけについての悩みが少し解消できそうです。
- ・読み聞かせをあまりしたことがないけれど、親も子もお互いに win-win であることが分かり新たな発見になりました。



事例5 小学校就学前後の子どもとのかかわり方

～自立的な子どもを育てる親のかかわりを考えよう！～

会 場：寒河江市立高松小学校

講 師：村山 恵子 氏（県家庭教育アドバイザー）



<研修目的>

就学前後の子どもにつけたい力とその力を引き出す子どもへのかかわり方を学ぶ

<研修内容>

- 1 自ら考え行動できるために…日常生活を振り返る
 - ・親主導を卒業し、失敗さえも「自分で決めた」成功体験として積み重ねる。
- 2 子どもの「くう・ねる・あそぶ・愛される」を保障する
 - ・遊びは学びの準備ではなく「生きることそのもの」
 - ・愛された実感が他者への共感を育む
- 3 子どもの「やってみたい！（主体性・自主性）」を引き出すかかわり方
 - ・家庭を評価の場ではなく、ありのままの自分を充電できる「安全基地」にする
 - ・子どもの負の感情も否定せず、試行錯誤を見守り、自己決定の機会を奪わない



★共に育つ環境づくり

親も 60 点でいい。大人が楽しそうに生き、地域との「ナナメの関係」で共に育つ。大人の都合で制限せず、子どもの「やってみたい」という好奇心を尊重する。

【参加者の声】

- ・怒りすぎた時は「言いすぎた」と伝え、大切に思っていると改めて伝えると良いと気づきがあった。
- ・親も一緒に成長していくので、60 点でいいんだとわかった。力を抜いて子育てをしていきたい。

事例6 自立した学び手と社会力の育成 ～子どもの思考を体験しよう～

会 場：新庄市立明倫学園

講 師：沼澤 直人 氏

（最上広域交流センターゆめりあ館長・県家庭教育アドバイザー）

<全体講演会>

- 1 ボールを用いたゲームを行いながら、子どもの視点・考え方などを体験した。
- 2 子どもは成功や失敗といった様々な経験を経て、自立した学び手となり、自ら考えて自己決定を行うことが大切で、子どもの自己決定の機会の確保や、社会力の育成のために親としてできることなどをお話いただいた。



<参加者の感想>

- ・親は自身の経験に基づき、近道を教えて正解に導いてしまうことが多いと反省します。先回りせず、例え失敗したとしても、子どもの経験の機会を作っていきたい。
- ・子どもの自己決定の機会を作り、その決定を尊重する事が大切だと感じました。
- ・学校での勉強も大切ですが、家庭での社会力の育成の大切さも再認識しました。

事例7 家庭における子育てについて ～子どもの育ちを支援して～

会 場：長井市立西根小学校

講 師：小松 ひろみ 氏（県家庭教育アドバイザー）



<講演会>

- 1 「大切にしたい視点」と「子育て」経験から
 - ・非認知能力 「優しさ」と「厳しさ」のさじ加減
 - ・手を当てて話をよく聞くことの重要性 小学校低学年の特徴
- 2 メディアが脳に与える影響
 - ・「生活リズム」「睡眠」「食事」と脳の働きの関係について、模型や図などを使って説明
- 3 心の健康について
 - ・不安や悩みが、自律神経の不調と連動すること
 - ・学校や家庭でよくある場面を「ロールプレイ」で再現し対応を学習
- 4 子どもの脳を傷つける親たち
 - ・不適切な関わりや子どもの前での激しい夫婦喧嘩などが脳に与える影響について説明
- 5 親子の関わりで大切にしたいこと

<参加者の感想>

- ・実際にあることを例に挙げていて「あるある！」と思いながら聞かせていただきました。とても分かりやすく勉強になりました。
- ・子どもは朝起きてすぐの時間帯は、色々なことを言っても頭に入っていないことが分かりました。特に1年生はまわりも見えてなくて交通事故等に遭いやすいことも分かったので、声かけを気をつけていきたいと思います。

事例8 親子で楽しく体軸体操

会 場：鶴岡市立東栄小学校

講 師：鈴木 貴晃 氏（TAIJIKU 子どもの運動学習塾鶴岡校代表）

<講演及び体験>

- ・運動能力チェック
- ・体軸体操
- ・親子で身体を使って遊ぼう！

<参加者の感想>

- ・日常生活の中で体軸を鍛えることで子どもの運動能力を伸ばすことができることが分かりました。
- ・親子で運動をする機会があまりないので、大切だと思いました。
- ・一緒に体を動かすなど、子どもとのコミュニケーションが大切であることを改めて感じました。
- ・上手にできなくても一緒に挑戦する楽しさを再確認することができました。



◆幼児共育ふれあい広場◆

事例1 親子スキンシップ体操

会 場：かほく あい こども園（河北町）

講 師：三井寺 優 氏（体創Lab.）



<親子体験>

- 1 ウォーミングアップ
 - ・子どもと共にウォーキング（色々な歩き方）
- 2 準備体操
 - ・屈伸・伸脚（浅く・深く）・体育座り～伸脚・開脚～押し合い
- 3 新聞紙を用いた遊び
 - ①丸める→子どもは両手、親は片手（母は利き手、父は反対）
 - ②広げる→手のアイロン（親子の力を合わせて）
 - ③広げたものと丸めたものをキャッチ（動体視力の強化）
 - ④キャッチ勝負 → 背中合わせで床に置いた新聞紙を取る



★家庭の中で触れ合いながら親子一緒に楽しむことが大切。

★「愛している」を100回言うより1回抱きしめた方が子どもに愛情が伝わる。

体を動かす楽しさを伝えることを通して、親子の触れ合いが深まることを願っています。

【参加者の声】

- ・親世代はできても、子どもたちには難しい動きがあることを知ることができてよかった。一緒に運動することでいつもはできない触れ合いができた。
- ・普段の生活で気づかない子どもの体の成長や不足していることがあると感じた。遊びの中から今後も成長を促していけるようにかかわっていきたい。

事例2 『親子でりかどく』 ～空気であそぼう～

会 場：新庄市立泉田保育所

講 師：チーム理科読（佐藤寛稔氏・奥山京子氏・小林純子氏・渡辺安志氏）

<全体講演会（読み聞かせ・体験活動）>

- 1 「空気」や「風」に関する内容の絵本の読み聞かせを行いました。
- 2 絵本読み聞かせの後、「空気」「風」の原理を使った実験や、おもちゃ作りを行いました。
- 3 分からないことなどを講師に聞きながら、子どもに限らず、大人も賑やかに楽しみました。



<参加者の感想>

- ・身近な“空気”でこんなに楽しめるなんて!!
- ・子どもが不思議に思うことを分かりやすく教えてもらえました。
- ・子どもと一緒に色々なことを共感する事が大切だと思った。
- ・おもちゃやゲーム、外部の施設などではなくとも、身近なものでこんなに楽しめるのだなぁと感じました。

事例3 親子で運動あそびを楽しもう！パートⅡ
会 場：致芳児童センター（長井市）
講 師：菅原 陽子 氏（運動のアトリエ）

<親子ふれあい体験講座>

- 1 開会
- 2 講師紹介
- 3 親子で音楽に合わせて「身体を動かそう！
触れあおう！楽しもう！」
- 4 みんなで繋がって遊ぼう！
「トンネルくぐり・連続馬飛びなど」
- 5 お礼の言葉
- 6 閉会



<参加者の感想>

- ・触れ合いも多く、子どもも親もゆっくり満たされた時間でした。
- ・直接触れ合うことができるのは、今しかない貴重な期間だと思うので、たくさんベタベタしながら大笑いしたり、汗をかいたりできたこと、楽しかったです。
- ・子どもと一緒に何かに取り組むことは、大切だと改めて気づきました。

事例4 トランポリン教室とミニ講座
会 場：庄内町体操競技練習場
講 師：齋藤 雅志 氏（県家庭教育アドバイザー）

<親子体験>

- ・トランポリン教室
- ・やまがた子育て5か条を基本とした講話
- ・絵本の読み聞かせ

<参加者の感想>

- ・あまりこのような機会がないので参加できてよかったです。大きなトランポリンで楽しそうでした。いつも気にかけてはいますが、改めて親子のふれあいを大事にしたいと思いました。
- ・ウェルビーイングという言葉は初めて聞きました。お互い気持ちよく過ごし、成長していけるように、伝え方の工夫が大事だなと思いました。
- ・家庭での声かけの仕方に気を付けようと思いました。ゲームはいずれ必ず問題になると思うので、ルールを決めて上手に付き合っていこうと思いました。



事例5 ゆめはーとクリスマスコンサート

会 場：ハートフルセンター 多目的ホール（寒河江市）

講 師：二瓶 明美 氏（県家庭教育アドバイザー）



<親子体験>

- | | | |
|--------------------------------------|-----------------|------------|
| 1 はじまりの音楽 | ♪わたしのあかちゃん | |
| 2 季節の歌 | ♪あわてんぼうのサンタクロース | |
| | ♪赤鼻のトナカイ 等 | |
| 3 楽しい歌 | ♪やきいもグーチーパー | ♪大きな栗の木の下で |
| 4 素敵な楽器の演奏（山形交響楽団フルート・クラリネット奏者による演奏） | ♪「くるみ割り人形」より | ♪ジングルベル 等 |
| 5 みんなで楽器を鳴らそう | ♪おもちゃのチャチャチャ | |
| | ♪小さな世界 等 | |
| 6 みんなで踊りましょう | ♪トントnpolsカ | |
| 7 おわりの歌 | ♪さようならワルツ | |

★一番は、子どもたちに生の歌声を聴かせること。

★母親の歌声がいちばん子どもに響く。



【参加者の声】

- ・歌も演奏もとても素敵だった。本物の楽器にも興味津々だった。
- ・二瓶先生の声がきれいで語りも良かった。いろいろな楽器が登場し、親子で楽しめた。
- ・膝に乗せてのリズム遊びも6か月の子どもも楽しんでいた。
- ・生演奏を聴く機会がないので親子で聞けて良かった。自由なところで音楽を楽しめた。

事例6 手作りおもちゃでパフォーマンス

会 場：真室川町立釜淵保育所

講 師：芳賀 哲 氏（仙台手作りおもちゃ研究所 主宰）



<内容>

- ・手遊び、ペープサート
- ・親子でふれあい遊び
- ・家にあるもので作った手作りおもちゃで遊ぼう

<参加者の感想>

- ・子どもも大人も一緒に楽しめて良かったです。
- ・工作も教えていただいて、家でも簡単に作れそうです。
- ・とてもおもしろかった。笑った。



事例7 クリスマスコンサート
会 場：なごみこども園（高畠町）
講 師：伊藤 真理 氏（はみんぐ♪代表）

<親子ふれあい体験講座>

- 1 歌
- 2 音楽絵本
- 3 手遊び

<気をつけたこと>

- ・ より多くの方にコンサートにお越しいただくために、伊藤さんからいただいたプログラムを、園アプリでの配信や玄関に掲示したことで、多くの方にお越しいただきました。
- ・ お越しいただいた方が、ゆっくりコンサートを楽しめるように、お子さんを預かりました。

<参加者の感想>

- ・ 先生や、講師の方の呼びかけにすぐ反応し元気に参加している姿に成長を感じました。
- ・ 子どもたちも、歌ったり踊ったりしていて楽しそうでよかったです。
- ・ 日頃の育児の疲れが癒されました。
- ・ 子どもがとても楽しそうに、笑顔で参加している姿を見ることができてよかったです。



事例8 親子で楽しくボールあそび
会 場：遊佐町立吹浦保育園
講 師：大瀧 雅士 氏（勘太郎文庫、童具共育アドバイザー）

<親子体験>

- ・ 絵本の読み聞かせ（ボール遊びにつながる絵本）
- ・ ボール遊び（様々な童具を使ったボール遊び）

<参加者の感想>

- ・ 布（シーツ）とボールの遊びは家でも手軽にできそうなのでぜひやってみようと思いました
- ・ 普段できない遊びをしていたのでどのようなことに興味があるのか、改めて知る機会になりました。
- ・ 1つの遊びを遊びきる楽しさやそれを広げていく楽しさに気づくことができよかったです。



◆家庭教育支援フォーラム◆

村山地区①

1 テーマ “家庭教育支援”とは？ ～子どものために私たち大人ができること～

2 期日・会場 令和7年5月23日（金） 村山総合支庁西村山地域振興局西棟 講堂

3 参加対象 県家庭教育アドバイザー、小中学校教職員、
市町教育委員会家庭教育・幼児共育支援担当者、図書館担当者、
図書館職員、読み聞かせサークル及び読み聞かせボランティア、
市町児童福祉部局担当者、子育て支援センター職員、
幼稚園・認定こども園・保育所職員、一般参加 等 (41名)

4 内 容 講師 県家庭教育アドバイザー 土屋 常義 氏
村山 恵子 氏
渡邊 裕子 氏



(1) 講師3名によるパネルディスカッション



- ・ 今の子育て事情と大切にしたいこと
→ “地域の大人の存在” の大切さ
- ・ 研修のキーワード
「共育」×「遊育」×「読育」からの家庭教育支援
- ◎ 「共に楽しむ・育つ」という思いを持つ
- ◎ 「遊ぶ」は子どもの「いのちのしくみ」
- ◎ 読み聞かせの“シチュエーション”と“アタッチメント”

(2) 意見交換「それぞれの立場で考える家庭教育
～子どもたちのために私たち大人ができること～」



- ・ 保護者の考え方の変化について
- ・ 頼りにするのはメディア等の情報
- ・ 子どもが自由に遊べる場の減少
- ・ 保護者支援の必要性
- ・ ななめの関係の大切さ …etc

5 参加者のアンケート

- ・ 自分の子だけでなく地域の子どもたちと関わっていくことが大切だなと強く思った。違う地域の違う立場も方々と互いに意見を出し合う今回のような場は、とてもありがたい。
- ・ 遊びの姿が変わっていていることや、今私たちができることは何かということを改めて考えさせられた。グループトークを通して様々な話ができてよかった。
- ・ 様々な世代で子育てについて意見交換ができてためになった。こういう場は、子育て中の方ほどためになると思うので、各所で機会をつくれたらいいと思う。
- ・ 職場等で共有して、子どもたちの学びの助けとなるよう頑張っていきたい。
- ・ 小学生というより、中学生に向けてどうしていくかというスタンスがなかなか難しく、悩むことが多い。思春期の子どもに何かできるのかといった講座があると大変うれしい。
- ・ 共に楽しむことと、共に成長すること、絵本やわらべうたなどを通してさらに子どもが成長できるように今後も関わりたい。
- ・ パネルディスカッションを聞いて、子育て中の親の立場としてはハッとさせられた。子どもの成長を妨げるような対応は、改善していこうと思った。各家庭に、共育、遊育、読育の内容が広まればいいと思った。

村山地区②

- 1 テーマ 食も心も“おすそわけ” ～持ちつ持たれつで紡ぐ子育て世代の輪～
- 2 期日・会場 令和7年10月10日（金） 村山保健所 大会議室
- 3 参加対象 山形県家庭教育アドバイザー、小中学校教職員、市町教育委員会家庭教育・幼児共育支援担当者、図書館担当者、図書館職員、読み聞かせサークル及び読み聞かせボランティア、市町児童福祉部局担当者、子育て支援センター職員、幼稚園・認定こども園・保育所職員、一般参加 等（27名）
- 4 内 容 講師 かみのやまこども食堂 かえる家
代表 萩生田 充知子 氏
副代表 萩生田 祐司 氏



（1）事例提供 「こども食堂『かえる家』の実践で見てきたもの」



- ・ こども食堂「かえる家」を始めたきっかけ
- ・ こども食堂「かえる家」の活動について
- ・ 子どもの支援から親の支援へ
→フードパントリーやフリースクールのスタート
- ・ 行政・民間との連携
- ・ 実践から見える子どもの姿や親の思い
- ・ 活動に込める思いや願い

（2）おしゃべりサロン ～持ちつ持たれつでつながる輪～ 日々思うこと、悩み、自分たちができること等思いを共有



5 参加者のアンケート

- ・ 何回聞いても涙が出てくるエピソードを赤裸々にお話しくださりとてもありがたい。初めての子育てで悩みながらやってきて、正解もわからないが、ふとした時に思い出して活かされたいと思った。
- ・ 子どもを大切にすることを甘やかすことと判断をすべて尊重することは、イコールではないことを改めて感じた。いろいろな子育て、教育がある中で、今回の話は、子どもを育てる多くの人に勇気を与えてくれるものだった。初めて参加したが、このような講座に多くの方が参加することで、多くの方がたくさんの元気をもらえと思った。
- ・ 地域の中に様々な事情を抱える家庭があることは知っていたが、今回の事例で生の現場の声を聞いたことはとても貴重だった。支える側のスタンスも勉強になった。自分にも何かできることがあるのではないかと考えさせられた。
- ・ 行政機関として、現状できることが制限されている（人員、予算等の問題）中で、できることを考えながら仕事したいと思った。



最上地区①

- 1 期日・会場 令和7年6月28日（土） 新庄市エコロジーガーデン
- 2 参加対象 保育園・こども園関係者、小中義務教育学校教員、家庭教育支援者、市町村教育委員会・福祉部局家庭教育支援担当者、地区 PTA 協議会母親委員及び保護者 等 （参加者 44 人）

3 内 容

（1）講演

演題

「家族の未来の健康を守るために」

①家族の健康を守る生活習慣づくり

講師：山田 敬子 氏 （最上保健所長）

②今日からできる減塩・ベジアップ

講師：高橋 さゆり 氏

（最上保健所地域健康福祉課 健康増進主査）

《講演内容》

○医療と介護の現状について

○生活習慣と病気

○家族みんなで健康生活

- ・ 減塩
- ・ ベジアップ
- ・ 食事バランス



（2）感想交流・情報交換



4 参加者のアンケートから（記述抜粋）

- ・ 体と心の健康に、栄養が結びついていることがわかりました。
- ・ 親の健康が子どもの健康につながることを実感しました。
- ・ 子どもを気遣う前に、自分が不健康だったので、まずは自己意識の改革が必要だと感じました。
- ・ 生活習慣を振り返ることができました。今日から、減塩し、野菜を取らせる工夫をがんばっていきたいです。
- ・ 子どものためにも、自分自身の健康に気を配り、元気でいなければと思いました。家族が幸せに過ごすために、毎日の料理や塩分に気をつけようと思います。

最上地区②

- 1 期日・会場 令和7年11月6日(木) 最上総合支庁
- 2 参加対象 保育園・こども園関係者、小中義務教育学校教員、家庭教育支援者、市町村教育委員会・福祉部局家庭教育支援担当者、読み聞かせサークル会員、放課後児童クラブ関係者 等 (参加者 14人)

3 内 容

(1) 講演と体験

演題 「作ってみよう！減塩メニュー」

講師 高橋さゆり 氏 (最上総合支庁地域健康福祉課 管理栄養士)

関 優花 氏 (最上総合支庁地域健康福祉課 管理栄養士)

柿崎 明美 氏 (栄養ケアもがみ D-nya (だーにゃ))

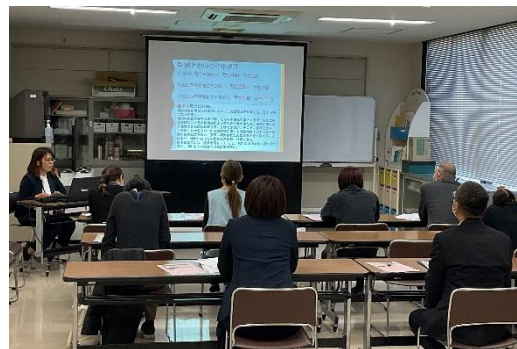
溝越 莉子 氏 (栄養ケアもがみ D-nya (だーにゃ))

《講演》

- 最上地域の健康課題
- 減塩で健康生活
- ベジアップで健康生活

《調理実習》

- キーマカレー
- ポテトサラダ



(2) 感想交流・情報交換



4 参加者のアンケートから(記述抜粋)

- ・減塩でも美味しくいただけることが分かった。
- ・塩分の取り方について習慣性があることを改めて感じました。
- ・講座を聞く事で普段の食生活を見直す事が出来ました。
- ・減塩メニューに対してそんなに積極的に考えていなかったのですが、今回のメニューはぜひ家族にも作って食べさせてあげたいと思います。マヨネーズを使わないポテトサラダとても美味しかったです

置賜地区①

1 期日・会場 令和7年6月26日（木） 置賜総合支庁西置賜地域振興局 講堂

2 参加対象 県家庭教育アドバイザー、各市町家庭教育支援担当者、幼稚園・保育園・こども園等関係者、子育て支援センター関係者（23名）

3 内 容

講演 「思いや考えを自分の言葉で伝える楽しさを

～『まる語』を使って、まあるい人間関係づくり～」

講師 菊地 喜美子 氏（フリーアナウンサー、県家庭教育アドバイザー）

- 1 はじめに
 - ①受講するにあたって
 - ②自己紹介
- 2 『まる語』について
 - ①『まる語』とは？
 - ②まる語メソッドについて
 - ③山形まる語学校とそのレッスン内容について
- 3 『まる語』を使ってみよう
 - ①発音の基本をマスターしよう
 - ②好きな言葉・嫌いな言葉を知ろう
 - ③紙に書いてみよう
 - ④言葉を見てみよう
- 4 振り返り
今日の私の『まる語』



4 参加者のアンケートから（記述抜粋）

- ・言葉で伝える楽しさを今まで考えたことのない視点から教えてもらいたくさん学ぶことができました。
- ・コミュニケーションにはズレがあるが、そのズレを楽しめるように言葉を発したり、伝えたりすることの楽しさを感じました。
- ・子どもだけでなく、大人でも言葉や間の使い方が大切だと分かりました。
- ・ことば・発声を意識するような時間は幼児期の頃に必要なものだと思改めて感じました。
- ・言葉の大切さを改めて実感しました。毎日何気なく使っている言葉ですが、相手を傷つけてしまうこともあるということを常に意識して使っていこうと思いました。
- ・心を通わせるコミュニケーションについて、自分らしさを出せる話し方についての発見が多く、学びとなりました。

置賜地区②

- 1 期日・会場 令和7年12月5日（金） 置賜総合支庁西置賜地域振興局 講堂
※オンライン研修会
- 2 参加対象 県家庭教育アドバイザー、各市町家庭教育支援担当者、幼稚園・保育園・こども園等関係者、小学校教員 等 （37名）
- 3 内 容
講演「愛着障害の視点から考える こどもを育てる支援の在り方」
講師 米澤 好史 氏（和歌山大学教授）

- 1 はじめに
 - ①受講するにあたって
 - ②自己紹介
- 2 愛着障害について
 - ①愛着の視点から、こどもの発達・学習・教育を捉え直す
 - ・愛着の基本原理
 - ・愛着障害への偏見・誤解・間違った捉え方
 - ②愛着形成とは？
 - ・愛着形成の3つの基地機能
 - ③よく混同される発達障害との違いを踏まえた愛着障害の理解と支援
 - ・愛着障害、愛着の問題発見ポイント

- 4 参加者のアンケートから（記述抜粋）
 - ・愛着障害のとらえ方が変わりました。親だけができることではなく、子どもとかかわる大人たちで愛着を形成していくことができることを学びました。また、発達障害との違いも学んだので学校教育の中でも子どもの行動をよく観察して、適切な支援にいかしたいと思います。
 - ・愛着障害について、大まかには知っていましたが、詳しく、より専門的な方のお話を聞きできてとても勉強になりました。また、愛着障害と発達障害それぞれについては知っていましたが、その違いや見分け方を教えていただいたのがとても良かったです。ありがとうございました。
 - ・米澤先生の愛着障害の考え方は、4年くらい前に知りました。発達障害と疑われる児童が増加する中で、「愛着障害」という考え方があることは、目からうろこでした。それ以来、子どものアセスメントの幅が広がったことを実感しています。今回は、若手教員と一緒に自分の再確認も含め、新たな視点での子どもの見方を学べたと思います。

庄内地区①

- 1 期日・会場 令和7年7月15日（火） 庄内総合支庁 講堂
- 2 参加対象 保育士、幼稚園・小学校・中学校教諭、養護教諭、行政職員、
県家庭教育アドバイザー等（参加者40名）
- 3 内 容
テーマ：「心のゆとりと子どもとの関わり方
～ポジティブ思考とアサーティブな会話を身に付けよう！～」
講 師： 小野 卓也 氏（県家庭教育アドバイザー）

- 1 心のゆとりとは？
- 2 子どもとの関わり方
- 3 家事あるあるをみんなで考えよう



4 参加者のアンケートから（記述抜粋）

- ・自分に余裕がなければ、何事も上手くいかない。日頃からストレスをためず、ポジティブに物事を考え、家庭も仕事も楽しく頑張っていきたいと思いました。
- ・アサーティブな会話の仕方について学ぶことができました。また、心にゆとりをもって関わるには、自分の心の状態を把握することも必要と感じました。
- ・ポジティブな思考になるためにどのような声かけをすると良いのか、わかりやすくなるようになりました。アサーションな会話実践できるようにしていきたいです。
- ・今回の研修を受けて、日ごろいかに自分の大変さや忙しさばかりに気をとられ、相手とのコミュニケーションをおろそかにしていたかを実感しました。最近よく見聞きする「自分の機嫌は自分でとる」という言葉も、「よい人間関係は自分の心の余裕しだい」につながるものだと思います。私も相手に期待しすぎず、完璧を目指そうとせずゆとりある日常生活を過ごすことを頑張ろうと思えた研修会でした。

庄内地区②

1 期日・会場 令和7年11月6日（木） 庄内総合支庁分庁舎 2号会議室

2 参加対象 保育士、幼稚園・小学校・中学校教諭、養護教諭、行政職員、
県家庭教育アドバイザー等（参加者31名）

3 内 容

テーマ：「子どもの心に響く励ましの言葉かけ

～ペップトークを身に付けよう～

講 師：小野 弘志 氏（一般財団法人日本ペップトーク普及協会認定講師）

1 ペップトークとは？

2 ペップトークを体験してみよう



4 参加者のアンケートから（記述抜粋）

- ・講師の先生の話がとても面白くて最後まで興味深く聞くことができました。ペップトークという言葉は初めて聞きましたが、とても素敵なものだと思います。こちらが捉え方を見直すことが大切だと思います。
- ・研修会に参加して何より信頼関係が根本にあり、しっかり向き合っこそ相手を勇気づける言葉が出てくるのだと知り、日頃の関わりや相手を受容することの大切さを再認識しました。動作、表情、姿勢を意識しながら日々の関わりを大切にしていきたいです。
- ・参加する前から気になる内容の研修会でした。先生のお話がとても楽しく、わかりやすい事例もあげてお話してくださり、頭にすっと入ってきました。今回教えていただいたペップトークを使いこなすことができるよう、日々研究して、子どもたちに合う言葉かけができるようになっていきたいと思いました。

◆子どもの読書活動推進研修会◆

村山地区①

テーマ「読みたい！は育てられる ～子どもが本に手を伸ばしたくなる読み聞かせの工夫～」

- 1 期日・会場 令和7年6月27日（金） 尾花沢市学習情報センター
- 2 参加対象 公立図書館（室）職員、読み聞かせボランティアサークル及び読み聞かせボランティア関係者、小中学校教職員、市町児童福祉部局担当者、管内市町教育委員会担当者、各市町子育て支援センター・保育施設職員、一般参加 等（参加者 56 名）
- 3 内 容
 - (1) 講話・実演【講師：小林 圭子 氏（お話の会くれよん）】
 - ・子どもの読書に対する内発的動機付けを高めるための工夫について
 - ・「お話の会くれよん」さんによる読み聞かせの実演（伊藤 順子 氏、川上 真由美 氏）
 - (2) 図書館見学
 - ・図書館職員の方による施設紹介及びLINE（ライン）を活用した貸出しシステムの説明
 - ・自由見学及び休憩
 - (3) 情報交換及びグループワーク
 - ・自己紹介及び「私のおすすめの一冊」の紹介
 - ・多様な読書活動のあり方を推進するための取組みや工夫について意見交流
 - ・参加者の日々の実践の共有
- 4 参加者のアンケートから（記述抜粋）
 - ・講師の方の本の紹介が楽しかったです。知っている本でも改めて楽しさを再発見できました。ブラックライトや伴奏を活用した「花さき山」の実演も大変素晴らしかったです。
 - ・絵本が持っている力に改めて気付かされました。ご紹介いただいた絵本はぜひ子どもたちに読んであげたいと思います。
 - ・本を知ることの大切さを改めて気付かせていただきました。本を好きになること、本を知ることにより、本の持つ力を感じたり、有難さを感じられるようになったりするのだと思います。自分を成長させなければいけないと感じました。



“本を知る”大切さを学ぶ



グループワークで実践を共有



図書館職員の方が
市立図書館の取組みを説明



魅力的な図書館を自由見学

村山地区②

テーマ 「絵本作家から学ぶ“伝わる”読み聞かせ ～実践に生かす表現と選書のヒント～」

- 1 期日・会場 令和8年1月20日（火） 上山市立図書館
- 2 参加対象 公立図書館（室）職員、読み聞かせボランティアサークル及び読み聞かせボランティア関係者、小中学校教職員、市町児童福祉部局担当者、管内市町教育委員会担当者、各市町子育て支援センター・保育施設職員、一般参加 等
(参加者 30 名)
- 3 内 容
 - (1) 講話・実演
【講師：きくち えつろう 氏（絵本作家） ゲスト：伊藤 萌 氏（シンセサイザー）】
 - ・創作エピソードや創作への思い、読み聞かせされることを意識した絵本制作について
 - ・読み聞かせをする上でおすすめの本の紹介
 - ・菊地氏とシンセサイザー奏者の伊藤氏による音楽表現を取り入れた読み聞かせの実演
 - (2) 図書館見学
 - ・図書館職員による施設紹介
 - ・自由見学及び休憩
 - (3) 情報交換及びグループワーク
 - ・参加者がもつ「選本の視点や思い」の共有
 - ・「今、子どもに届けたい本」の紹介
- 4 参加者のアンケートから（記述抜粋）
 - ・絵本についての考え方や絵本を制作するにあたっての背景を知ることができて、とても参考になりました。
 - ・講師の先生や参加者の皆様から読み聞かせに向いている本を教えていただくことができたので、今後の実践に生かしていきたいです。
 - ・自分が知らなかった絵本や皆さんの絵本に対する気持ち等を知り、読み聞かせに対する気持ちがさらに高まりました。



最上地区

- 1 期日・会場 令和7年12月2日（火） ゆめりあ会議室
- 2 参加対象 読み聞かせサークル会員、教員・保育士等、協働活動支援員等、放課後子ども関係者、学校支援ボランティア、公立図書館（室）職員、市町村教育委員会社会教育主管課担当者等（参加者41名）

3 内 容

（1）講演とワークショップ

子どもと本を出合わせる工夫 ～地域の大人にできること～
講師：田口 幹人 氏（NPO法人読書の時間 理事長）

【要旨】

- 学校の図書館の役割
- 朝読書のよさ
- 紙の本を読むということ
- いろいろなジャンルの本を手にとってもらう工夫
- 図書費を獲得するには

（2）情報交換

講演の感想と、日頃の読み聞かせ活動についての情報交換



4 参加者のアンケートから（記述抜粋）

- ・朝読書は良いものだとすることを再認識しました。
- ・本を選ぶ行為をしなくなったが、本を「選ぶ」ということが重要だということがわかりました。
- ・本を手にとってもらう方法のアイデアを頂きました。
- ・なぜ読書をするのか、自分自身も明確になった気がします。
- ・今回の続きの講座がありましたら、参加してみたいと思います。
- ・各団体さんにもっと研修会に参加してほしいです。
- ・田口先生に各学校に来てもらいたいです。先生方にも是非お話を聞いてもらえたらいいと思います。

置賜地区

- 1 期日・会場 令和7年11月13日（木） 米沢市市民文化会館
- 2 参加対象 各市町教育委員会社会教育主管課、図書館職員、読み聞かせボランティア、小学校・幼稚園教諭、保育士、公民館・コミュニティセンター職員 等。

3 内 容

- (1) テーマ 絵本専門士による大人のための絵本講座
～2025 今を生きる絵本、その魅力と可能性～

講 師 舟山 康子 氏
(絵本専門士、市立米沢図書館職員)



- (2) 講演

- 講演「絵本専門士による大人のための絵本講座」
- 質疑応答 ※質問は事前にフォームで募集
- 施設見学（市立米沢図書館）
 - ・スタンプラリー形式で図書館巡り



4 参加者のアンケートから（記述抜粋）

- ・まだ読んだことのなかった心に残る本を知ることができ、心が動かされました。思い込みをなくし、本と向き合っていきたいと思います。
- ・読み聞かせをする側の立場で絵本を選んでいたことを反省しました。毎回本の選書に迷っていましたが、一つの指針になりました。いろいろな本を紹介していただきありがとうございました。
- ・自分の本選びの視点がだいぶ以前のものばかりでしたので、今日の先生のご提示は新鮮でした。絵本に対する先生の情熱あふれる語り、とても良い時間をいただきました。
- ・先生の人柄が伝わってくる良い講演会でした。お話をお聞きして絵本の選び方に「思い込み」があり、ハッとさせられました。「多様性」「ジェンダー」「生と死」など子どもの感性を大切にして選書をしていきたいです。
- ・知らなかったことや意外なことなどがたくさんあり、とても勉強になりました。舟山先生の知識の多さに驚きました。

庄内地区

- 1 期日・会場 令和7年10月23日（木） 庄内町役場大会議室、庄内町立図書館
- 2 参加対象 子どもの読書活動に関わるすべての方、幼稚園・認定こども園・保育所教職員、小・中・高校教職員、市町図書館関係者、読み聞かせサークル会員、各市町職員、地域一般の方等（参加者 29 名）
- 3 内 容
 - (1) 講 話
テーマ：「読書好きな子どもを育てる～子ども真ん中の読み聞かせ～」
講 師：渡邊 裕子 氏（県家庭教育アドバイザー）
【要 旨】①読書の効能
②大人が子どもの読書をコントロールしない
③絵本を真ん中に会ったエピソード
 - (2) 説 明「第4次山形県子ども読書活動推進計画について」
 - (3) 体 験・観 覧「新しい読書のカタチ普及啓発イベント」
- 4 参加者のアンケートから（記述抜粋）
 - ・本に親しむことのよさや、子どもに向き合うときの心構えなどを改めて考えることができた。また、情報交換で読書に関する取組みのアイデアをいただいた。
 - ・研修会に参加すると、初心に返って頑張るような気持ちが湧いてきたり、同じような立場の方と情報交換することで発見があったりして楽しい。
 - ・アクセシブルな書籍を実際に目にする良い機会となった。
 - ・読み聞かせは、子どもの心に種をまき、大人になっても心を支えることがあるということがわかった。
 - ・子どもに無理やり読書を勧めるのではなく、自主性が大事だということを再確認できた。



◆子どもの読書活動推進講座◆

村山地区①

テーマ「ハロウィン★おばけの国への招待状 ～おばけ絵本とランタン作り～」

- 1 期日・会場 令和7年10月26日（日） 西川小学校図書館
- 2 参加対象 3歳～小学3年生程度の子どもと保護者等（参加者：15家庭48名）
- 3 内 容
 - (1) 絵本の読み聞かせとおばけの絵本の紹介
 - ・「サークルぴーつく」さんによる絵本の読み聞かせや紙芝居の実演、おばけの本やハロウィンに関する本の紹介
 - (2) おばけランタン作り
 - ・月山和紙を活用したおばけランタン作り
 - ・「color's」さんによるおばけランタンの製作手順の説明及び製作補助
 - (3) 館内ハロウィンおばけクイズ
 - ・製作したランタンを使ったおばけ探し
 - ・おばけに扮する西川町青少年育成推進員の皆さんがクイズを出題し、お菓子を配付
- 4 参加者のアンケートから（記述抜粋）
 - ・読み聞かせからのランタン作り、それを使っておばけを探しに行くという講座の流れが素敵だと思いました。よい経験ができました。
 - ・ハロウィンの時期にあわせて、読み聞かせの本や工作を楽しむことができて良かったです。本の内容に関するクイズを楽しみながら、おばけ探しができたことも良かったです。
 - ・家ではあまり観る機会のない紙芝居に子どもたちはとても見入っていました。図書館に行く機会に紙芝居を借りてみようと思いました。
 - ・本や紙芝居の読み聞かせ方が勉強になりました。本を使って子どもの会話を豊かにすることができると感じたので、今後は、子どもにもっと読み聞かせをしていきたいと思いました。



村山地区②

テーマ「 恐竜×絵本＝無限大！ ～読み聞かせと化石作りから広がる大冒険～ 」

1 期日・会場 令和7年11月9日（日） 山形県立図書館

2 参加対象 3歳～小学3年生程度の子どもと保護者等（参加者：16家庭48名）

3 内 容

(1) 恐竜に関する大型絵本の読み聞かせ

・東北文教大学児童文化部の学生の皆さんによる大型絵本の読み聞かせ及び楽器演奏

(2) 化石のレプリカ作り

・石膏を使った化石のレプリカ作り、化石の色付け

・山形県立博物館の学芸員の方による製作手順の説明及び製作補助

(3) お楽しみブース巡り

・各ブース(①読み聞かせブース②お絵かきブース③クイズブース④化石ブース)巡り

4 参加者のアンケートから（記述抜粋）

- ・とても魅力的な講座で、子ども達が飽きないような仕掛けもたくさんあり、終始楽しかったです。またこのような機会があればぜひ参加したいと思います。また、県立図書館での実施もとても良く、子どもが「この図書館また来てみたい」と言っていました。
- ・東北文教大学の皆さんがとても頑張っていて、子どもたちが夢中になれる内容でした。親子で楽しませていただきました。
- ・恐竜のことを知ることのできる多くの体験があって、子どもがとても楽しそうでした。夢中になって活動していました。
- ・化石作りでは、先生が個別に親切に対応してくれました。力が必要で子どもだけでは難しいところも安心して作ることができました。
- ・普段できないことを色々体験できました。特にレプリカ作りは、初めての体験だったので、大人も子どもも楽しく活動させていただきました。上手にできてよかったです。



絵本の読み聞かせと楽器演奏



親子で化石のレプリカ作り



各ブースを巡って本に親しむ



本物の化石にタッチ

最上地区

- 1 期日・会場 令和7年10月4日（土） 新庄市民プラザ
- 2 参加対象 最上地区の小学生の親子（参加者 親子17組38名）

3 内 容

テ ー マ 「親子で楽しむ パンと絵本」

講 師 ○パン作り講師：和田 和子 氏（キッズキッチンインストラクター）
○おはなし会：新庄市読み聞かせ連絡協議会（新庄市）

活動内容 ○おはなし会
○パン作り体験



4 参加者のアンケートから（記述抜粋）

- ・ ゆっくりパンを作ったり、絵本を読み聞かせしていただいたり、ゆったり過ごせた時間でした。子どもとも楽しい時間を過ごせました。
- ・ 読み聞かせがすばしかったです。
- ・ 親もひと息つくことができました。
- ・ パン作りが初めてで、親も子も楽しむことができました。
- ・ 子どもと親、別々の読み聞かせ、良かったです。大人にも絵本を読んでもらえてうれしかったです。

置賜地区

テーマ 『Let's 理科読～音って何だろう～』

1 期日・会場 令和7年7月12日（土）

南陽市赤湯公民館

2 参加対象 置賜管内の幼児～小学6年生

親子9組 23名

3 内 容

絵本の読み聞かせと理科の実験を組み合わせて実施。

(1) 絵本の読み聞かせ

講師：理科読マイスターの方

(2) 理科実験の解説

講師：栗山 恭直 氏（山形大学理学部教授）

4 参加者のアンケートから（記述抜粋）

- ・実験がたくさんあって良かったです。今回の講座のよういろいろな本の活用の仕方、楽しみ方を体験できる機会を増やしてほしいです。
- ・モールが回る実験が楽しかったです。読書の大切さは大人になると、とても大切であると分かります。子どもにも今のうちから本に親しむ大切さを伝えていきたいです。
- ・草笛の吹き方が分かって良かったです。家でもできるものがあったので、子どもと一緒にやってみたいと思いました。親子で参加できるこのような講座をまた企画してほしいです。
- ・実際に風船や葉っぱなどを使って音を出す楽しさがあり良かったです。違う学校の子どもや保護者とも関わる機会があり充実した一日になりました。



庄内地区

テーマ プラネタリウムと絵本で星と宇宙の世界へ出発！

- 1 期日・会場 令和7年6月28日（土） 鶴岡市中央公民館
- 2 参加対象 小学1・2年生の親子20組42名（小学生20名・保護者20名
未就学児2名）

3 内 容

（1）プラネタリウム鑑賞

（2）星や宇宙に関する読み聞かせ

- ①「北斗七星」（素語り）
- ②「パパ、お月さまとって！」
- ③「よかったね、ネッドくん」

講師：井上 裕子 氏、奥村 由未 氏、菅原 希 氏、杉本 秀夫 氏
（読み聞かせサークル「おはなしポケット」）

（3）七夕かざり作り

講師：読み聞かせサークル「おはなしポケット」

4 参加者（保護者）のアンケートから（記述抜粋）

- ・絵本などのように目で見て耳で聞いてというのも良いが、語りのように耳で聞いて自分で想像力を膨らませることも大切だなと思った。語りは初めての体験だったので、良い経験になったと思う。
- ・季節に応じた本を探すのも楽しいと感じた。
- ・工作が特に楽しかったようで、家に帰ってから飾り付けを楽しんでいた。プラネタリウムなど普段では経験できないことを経験できてよかった。

